スライド１

JOGGO

想いをカタチに

BORDERLESS

スライド２

ジョッゴ株式会社はソーシャルビジネスに取り組む企業

ソーシャルビジネス＝社会問題の解決になるビジネス

スライド３

ジョッゴはボーダレス・ジャパンのグループ企業

ボーダレス・グループは、「ソーシャルビジネスしかやらない」企業の集まり。

・世界16カ国で42のソーシャルビジネスを展開（2021年12月現在）

・2007年3月設立。年商 55.4億円(2020年度)、

　従業員数約1,500名（グループ計）

ソーシャルビジネスとは

効率性を追求することで、取り残された人やもの、場所や社会に対して非効率性をも含めてビジネスを展開することを、ボーダレス・グループは『ソーシャルビジネス』と呼びます。貧困、教育、難民、地球温暖化などあらゆる社会問題の解決に取り組んでいます。

スライド４

VISION of JOGGO

感動でつながりを

 To create linking of special moments

わたしたちは

商品がお客さまの手元に届き使いつづける中で生まれる感動を通して、職人・スタッフ・お客さま一人一人の「心動く瞬間」を生み出します。

国境や宗教、障害を超えたすべての人がともに喜びを分かち合い、「心」でつながる社会を目指して。

スライド５

ジョッゴの経営理念

Principle（基本理念）：より良い地球を次世代へ繋ぐ

Vision（目指す世界観）：感動で繋がりを

ジョッゴは、商品がお客さまの手元に届き使いつづける中で生まれる感動を通して、職人・スタッフ・お客さま一人ひとりの「心動く瞬間」を生み出します。国境や宗教、障害を超えたすべての人がともに喜びを分かち合い、「心」でつながる社会を目指しています。

Mission（果たす役割）： 「誇り」を持てる選択肢をすべての人に
貧困が背景に就業困難、経済的自立が不可能な状況に置かれた人、障がい者という理由に職業選択が限られた人。ジョッゴは国内外問わずそのような人々に一流の革職人とし活躍してもらうことで、自身の仕事に「誇り」を持って働いてもらいたいと考えています。

Values（大切にする価値観）：ソーシャルインパクトに重きを置き、プロフェッショナルとして、人として成長し続ける

スライド６

会社概要

代表取締役社長：太田真之

設立：2014年3月

事業：

JOGGO：バングラデシュにある自社工場で製作した革製品を国内でEC販売

UNROOF　JAPAN：東京にある自社工場で製作した革製品を国内でEC販売。また他社との共同開発、革製品の受託生産

スライド７

JOGGO

解決したい社会問題：バングラデシュの貧困問題

社会問題の背景

アジアの最貧国　写真：階段をのぼる子ども

過密な人口　日本国土40％に1億6千万人→都市の失業率　写真：密集した人々

貧困層→未就学・未経験だから働きたくても働けない　写真：道に立つ女性

スライド８

事業概要

事業コンセプト：

誇りの持てる仕事の選択肢を全ての人へ

就職困難な人々をバングラデシュにある
自社工場で積極的に採用

貧困が理由にまともな教育が受けられなかった人

シングルマザー

障がい者

採用後は一流の革職人に育成。

職人としてJOGGO商品の製作を行っている。

経済的安定性と安心して働ける環境を提供

雇用を創ろう

写真：工場で働く女性たち

スライド9

障害者

シングルマザー

父の蒸発などで絶対貧困度が高い人

↓

優先的に採用する人事制度

写真：車いすに乗った障害者やシングルマザーの集合写真

スライド10

写真：工場内で集合してピースサインを作っている人びと

スライド11

誇りを持つ仕事

写真：円陣を組んで両腕を差し出しあっている人びと

スライド12

商品特徴

バングラデシュの工場で受注を受けてから全て手作業で縫製・製作を行う。

オンラインサイトにて国内に向けて販売、60アイテム（SKU）取り扱う。

牛本革でありながら低価格帯（例：長財布17,000~30,000円）

1. 本革アイテム（60アイテム）写真：財布の写真
2. 14色からパーツごとに好きな色を選べる　写真：色見本
3. ×②

↓

世界で唯一の本革製品がオーダーできる

スライド13

ITEMS

長財布　2つ折り財布　コンパクト財布　キーケース　名刺入れ　革の花・ブーケ　スマホケース　パスケース　ステーショナリー　バッグ

スライド14

QUAlity

コンパクト財布

3つ折りミニ財布　収納力もサイズもこだわりたい方に

四角いコインケース　持ち物一つ一つにこだわりたい貴方へ

コンパクトウォレット　サブなのに主役？手のひらサイズに小銭もお札もカードも

丸いつまみのマルチウォレット　カード・鍵・小銭すべてがまるっと収まる、お出かけはこれ一つで

本革コンパクト財布（レザーウォレット）

JOGGOの本革コンパクト財布（レザーウォレット）は、人気のミニタイプから、定番のコインケースまで取り揃えています。高級本革を使って丁寧に作られた商品は、自分用だけではなく大切な方へのギフト・プレゼントにも最適です。14色のレザーを組み合わせてオーダーメイドできるため、メンズ・レディースを問わずお好みのデザインを作れます。こだわりが詰まったオリジナル本革財布を仕立ててみませんか。

スライド15

販売方法

EC

（イー・コマース／電子商取引）

スライド16

インターネット広告

SEO

(検索エンジンの最適化)

JOGGOのSNS

（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）

画像：各種SNSのロゴ

画像：SEOと書かれたロゴ

画像：インスタグラムの画面キャプチャ

スライド17

画像：Google　アナリティクスの解析画面

スライド18

UNROOF

解決したい社会問題：日本における障がい者雇用の問題

社会問題の背景：企業・雇用者側が持つ天井

1. 意識の天井

障がい者は仕事ができない

障がい者は助けてあげないといけない

1. 選べる仕事の天井

障がい者は単純作業しかできない

障がい者はずっと同じ仕事しか渡せない

1. 給与の天井

障がい者は能力がないから給与は低水準でいい

障がい者は昇進・給与が上げなくていい

スライド19

事業概要

事業コンセプト：

障害の有無に関わらず誰もが輝ける社会を作る

精神・発達障害のある方々を健常者同様に一般枠で採用

東京久米川市の自社工場で革職人として、自社ブランドまた他社商品の製作を行う

仕事内容・給与のステップアップが可能

スライド20

商品特徴（自社ブランド）

東京久米川市の工場で受注を受けてから全て手作業で縫製・製作。

オンラインサイトにて国内に向けて販売。

耐久性へのこだわり

国内産の牛本革を使用、長く愛用いただけるよう耐久性にこだわり製作しています。購入後の修理サービスも提供。

ボーダーのないものづくり

ユニセックスのデザイン、左利きの人が使いやすいデザインなど、ボーダーのないもの
づくりを実現。

写真：長財布と2つ折り財布

スライド21

商品特徴（他社OEM生産）

UNROOFの事業コンセプトに共感いただいた企業・ブランドとともに商品の共同開発、その商品のOEM生産を受託している。

SHIPS X UNROOF

両ブランドによるウォレットとカードケースのコラボレーション商品　写真：長財布とカードケース

中川政七商店 X UNROOF

共同開発した「こはぜ留めのコンパクト財布」　写真：コンパクト財布

ヤマップ X UNROOF

共同開発した「鹿革L字ウォレット」と「鹿革スマホポーチ」　写真：L字ウォレットとスマホポーチ

スライド22

サステイナビリティへのコミットメント

環境

不必要な生産と在庫ロス減らす。

商品は非常に高い耐久性の本革を使用し、自社工場で職人が一つひとつ丁寧に縫製して仕上げています。お客様に長くご使用いただくことで、不必要な生産を減らし、環境への負荷を軽減することができます。また、受注生産を行うことで、過剰な生産や在庫ロス発生の軽減に取り組んでいます。

革は副産物を利活用。

の商品で使用している革はすべて食肉を生産する過程で生まれた副産物です。捨てられるはずだった資源を循環サイクルに戻し利活用することで、持続可能な生産に取り組んでいます。

自然エネルギーの使用

2020年8月より、久米川工場の電力を株式会社ボーダレス・ジャパンの電力サービス「ハチドリ電力」に切り替え。CO2を排出しない自然エネルギーを使用し、環境への負荷の軽減に努める。

画像：ハチドリ電力　地球温暖化を防ぐCO2を出さない電気始まりました！

スライド23

サステイナビリティへのコミットメント

社会

社会に対する取り組み

雇用の創出・経済的自立の支援

未就学、障害を理由に採用されなかったり、劣悪な労働環境で働くことを強いられてしまう。そんな差別・偏見によって他の工場では雇ってもらえないような人たちを優先的に雇用。安心して働ける場と安定した給与を提供して行く。

従業員に対する取り組み

安心して働ける環境の整備

バングラデシュにおいて2018年に託児所を開設。子供を預ける場所や頼れる人がいなかった人たちへ無料で提供。また、より働きやすく貧困の連鎖から抜け出せる環境づくりを目指し、インフラ・医療・教育施設が併設された『ボーダレス・ビレッジ』を建造を計画。

格差をなくし、ダイバーシティ＆インクルージョンの実現

精神疾患・発達障がい者の職業の選択肢や給与の格差をなくすことを目指す。

将来的には全国に工場を展開し、多様な障害がある人たちと働ける環境をつくりたいと考えている。

スライド24

工場　写真：工場で働く多くの人々

食事　写真：料理が火にかけられた鍋に入っている

教育　写真：子どもたちの集合している写真

医療　写真：病院の様子

スライド25

達成状況（ソーシャルインパクト）

JOGGO

2017年　直接雇用数107　雇用者数の家族数428　合計535

2018年　直接雇用数113　雇用者数の家族数452　合計565

2019年　直接雇用数130　雇用者数の家族数520　合計620

2020年　直接雇用数82　雇用者数の家族数328　合計410

2021年（予測値）　直接雇用数90　雇用者数の家族数360　合計450

2022年（予測値）　直接雇用数130　雇用者数の家族数520　合計650

バングラデシュの工場の被雇用者と、その家族の人数を合わせた数をソーシャルインパクトと置く。

UNROOF

障害のある人の職人の雇用人数

2019年　4人　2020年　8人　2021年（予測値）10人　2022年（予測値）12人

久米川工場で働く職人数をソーシャルインパクトと置く。